

## ■ 議題

---

今回の審議委員会は、1月19日（木）放送の市政情報番組「市役所からこんにちは」から、「國島高山市長と都竹飛驒市長の対談」を聴いて審議に入った。

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取したのは「両市長の対談」なので、この内容に対して意見を述べるとなると少し違う気がする。だが、「両市長の対談」が実現し、放送をしたことについては、大変インパクトがあり、新聞にも取り上げられたのかなと思う。  
今、聴取した内容についてでも良いし、普段聴いている放送についても良いので、順次、意見をお願いしたい。

原委員： 意見が少し辛口になるが、せっかくいろいろな番組・コーナーがあるのに、1つの内容（両市長の対談）を約28分間も聴くのは辛いと思った。確かに2人とも市長だけあって話し方も慣れており、非常に面白く聴けた。しかし、審議委員会というせっかくの機会なので、他の番組も聴きたかった。やはり、いろいろな番組があって、それを聴いて意見を述べるとというのがこの会議の趣旨だと思うので、次回からはここで聴いてもらう内容を考えて欲しいと思った。

大萱委員長： その通りだと思った。何か特別な思いがあって、「両市長の対談」にしたと思うがどうなのか？

会社側： 普段の番組審議委員会での聴取時間は約20分間で、その中で2～3つぐらい内容を聴いていただくのだが、今回の一番の目玉が「両市長の対談」だった。1つの内容だけを聴取していただくのは、今回初めての試みだったが、審議委員の中には仕事で聴けなかった方もいると思ったので、28分間あえて聴いていただいた。

大萱委員長： 思いは分かったが、原委員が言うように、たくさんの番組があるわけだし、私たちも一生懸命聴かないといけない立場なので、ぜひ、いろいろな番組を聴かせて欲しいと思う。

田中委員： 「両市長の対談」については、高山祭・古川祭の話や、映画「君の名は。」（登場する女子高生が飛騨地方在住）が流行っていて今後どうするのかなど、なかなか聴くことができない話が両市長の口から生で聴けたので良かったと思う。

大萱委員長： トップ2人の対談は確かに面白いと思った。できればいろいろなトップがいるので、今後も（対談を）企画して欲しいと思う。仕事の都合などでスケジュール調整が難しいかもしれないが、取り上げて欲しい。

会社側： 両市長のスケジュールは、昨年の秋ごろから調整して新年に実現させた。

大萱委員長： 企業のトップ対談でもよいし、いろいろな方の対談・会談を企画して欲しいと思う。たいへんだと思うが頑張ってもらいたい。

奥原委員： 「両市長の対談」だが、それほど堅苦しい雰囲気はなく、掛け合いが楽しくて良かったと思う。その話の中でも、祭りの話から少子高齢化など地域が抱える課題の話まで聴けて良かった。両市長からしか聴けない特別な話があれば、もっと聴きたいと思った。  
それと、話と話の間で「君の名は。」のテーマ曲が流れたが、曲の出だしが賑やかだったためか、突然「ボーン」と入ってきた感じがしてびっくりした。

大萱委員長： 限られた時間での対談だが、せっかくの良い機会だったので、いろいろな話を聴きたいという思いが、皆さんの中にあるのではないかと。音楽については今回の聴取のために、途中で割愛したのか？通常放送では途中で切れることは無かったのか？

会社側： 通常放送では、放送事故無く放送することができた。

川原委員： 「両市長の対談」にあった無形文化遺産の話は、高山市長と飛騨市長の祭りに対する熱い話が聴けて良かった。  
後半は「君の名は。」の話になったが、「ブレイクタイムを挟んで…」と言っていたので私ははっきり祭りの話が続くのかなと思っていたが、急に「君の名は。」の話に変わっていたので、少し違和感を覚えた。また「君の名は。」の経済効果の話の中で、来訪者数が最初は75万人とナビゲーターが言っていたが、その後、飛騨市長は4～5万人と言っており、数が違い過ぎてどちらが正しいのかよく分からなかった。

両市長の話は、なかなか聴くことができない上に、堅苦しい雰囲気もなく仲睦まじい様子が伝わった。話自体は今後の政策だったり、「君の名は。」の話だったり、興味が持てる話題で良かった。

大萱委員長： 私も「君の名は。」の来訪者数については「（飛騨市長とナビゲーターの言っている数が）こんなに違うんだ」と感じていたし、どちらが正しいのか分からなかった。たぶん、飛騨市長が言っているほうが実数ではないかと思う。カウントの仕方によって数が変わるので違いが出てくるのかもしれないが、ラジオ放送は、間違っただけを言えないので、気を付けなければいけないと思う。

下裏委員： （下裏委員は田谷委員の代理で、高山市役所企画課の職員）先ほどの話にもあったが、去年の10月ごろに大岩社長（ヒッツFM 代表取締役社長）より「市役所からこんにちは」（公開生放送の市政情報番組）の中で両市長の対談を行ってはどうかという提案があった。私共も、何とか実現したい思いでスケジュールを調整して実現することができた。企画する中で「飛騨地域の三市一村（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）が協同していく」ことも話に出ていて、実際に両市長もそのような思いで話をしてくれたことが良かったと思った。また、両市長が和気あいあいと掛け合いをしていたことも良かった。あと、「市役所からこんにちは」はインターネット回線を使って庁舎1階に設置したサテライトスタジオより放送している為）これまで放送が稀に途切れたりすることがあり心配していたが、今回の「両市長の対談」は、非常に放送がキレイに入っていたので安心した。

大萱委員長： 飛騨市もヒッツFMは聴けると思うので、是非、飛騨市役所からも公開生放送をして欲しいと思う。

安田委員： 「両市長の対談」だが、言葉の掛け合いも上手くやっており「さすが」と思った。

ただ、先ほどの話にもあった数字のことや固有名詞など、分からない点がいくつかあった。普段、ラジオを聴いている時にはそれほど気にならないが、改めて聴いてみると「どのような意味なのだろう？」という点があり、台本があったのかもしれないが、話の流れで台本から逸れることもあると思うので仕方がないのかも。自分はそんなに苦にはなかったが、不明な点がいくつかあった。

また、28分間同じ内容を聴取することは、今回は両市長のビックな対談で良かったが、少し長い感じがした。しかし、なかなか2人の市長がラジオで話す機会はないことだし、リスナーからすると2人に他にも聴

きたいことがあると思うので、また2人の対談を実現させて欲しいと思う。

大萱委員長：今回は、ヒッツFMか高山市企画課の方で、両市長の対談内容を決めたのか？

会社側：対談の内容はヒッツFMで決めた。ユネスコの無形文化遺産に登録された話と（昨年12月に、高山祭・古川祭 起し太鼓の屋台行事を含む全国の「山・鉾・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録された為）、映画「君の名は。」について話をしてもらうことにした。

大萱委員長：審議委員の皆さんの意見にもあったように、両市長にまだまだ聴きたいことがたくさんあると思うので、もし、また両市長の対談が実現したら、「こんなことを両市長に聞いてみたい」というようなタイトルで、いろいろな方の意見を基に両市長に話をしてもらうという番組があると面白いのかなと思った。2人揃わなくても、1人でもできると思うので、実現できるようだったらお願いしたい。

土屋委員：皆さんと同じ意見になるが、両市長は常々自分の市のPRをしているので、非常に話が上手く、市の宣伝としては良かったと思う。「飛騨は一体」という話もしていたので、他の市長や村長も誘って対談できたら良いと思う。

また、「君の名は。」と「ユネスコ無形文化遺産登録」の話が出ていたが、「君の名は。」については現在、非常に盛り上がっているが、一過性のものだと思う。この先10年後も「聖地巡礼」に人々が来るかと考えるとそうではない気がする。「ユネスコ無形文化遺産」のほうをもっと盛り上げたほうが良いと思うので、今後取り上げて欲しい。

大萱委員長：聴取した内容について一通り意見を頂いたが、普段聴いている番組について、気になっていることなど意見があればお願いしたい。

田中委員：各ナビゲーターのフリートークの内容だが、イベント会場や現場へ出向き取材を行い自分の思いを語る方がいる一方で、インターネットで調べた情報を中心に紹介している方もいるので、改善が必要になるのかなと普段思っている。

大萱委員長：そのあたりについては、今日出席している辻井ナビゲーターは、アクティブに動いている印象を受けるがどうなのか？

辻井ナビ： 私はなるべく自分が取材先に行ってその状況を伝えることにしている。ヒッツFMが、とても身近なラジオだと皆さんに感じてもらいたいのので、地元で暮らしている方の声や、いろいろなイベントをしている方の声を録音してラジオで流すようにしている。それによって、市民の方も「いつもは行かないけれど、今回はこのイベントに行ってみようかな」とか「こんな感じで（イベントを）やっているんだ」など、よりヒッツFMに親近感を持ってもらえると思う。私自身、出掛けることが好きだというのもあるが、そのあたりを心掛けている。

大萱委員長： 外国人観光客へのインタビューは続いているのか？

辻井ナビ： 続いている。昨日もインタビューをしてきたのだが「君の名は。」の聖地巡礼で訪れている方に話を聞くことができ、「本当に訪れている方がいるんだ」とリアルに感じる事ができた。また、放送することによってリスナーも同じようにリアルに感じる事ができるのではないかと思う。

大萱委員長： これからもその姿勢を崩さず頑張ってもらいたいと思う。もちろん、インターネットは情報が手軽に調べられるツールなので、インターネットの使用が駄目だというわけではなく、要は「それだけに頼るのではなく」という意見だと思う。当然、正確に伝えなければいけないので調べることも大切だが、インターネットが100%正しいかどうかは分からないし、過度に頼らないことも必要なのかなと思う。「インターネットを使っては駄目」ということではなく、あくまでもツールとして使用して欲しい。

原委員： 外に出て取材し、いろいろ話すことは、エピソードなどがすぐに入ってきて臨場感が出ると思う。そこへさらにインターネットで調べたことも加えると、もっと話が膨らむと思う。

大萱委員長： ぜひ、いろいろな所に出かけて欲しいと思うし、ヒッツFMとしても、現場に行くナビゲーターを振り分けて、サテライトにしてもそうだが1人に集中すること無く、いろいろなナビゲーターにいろいろな経験を積んでいただければと思う。  
他に意見があればお願いしたい。

原委員： 先日2月3日に行われた国分寺通りの「節分祭」の際には、私が責任者として執り行っていたが、ヒッツFMでも宮ノ下ナビゲーターが取材して取り上げてくださったので大変感謝している。

大萱委員長： ぜひ、これからも地域話題をどんどん取材して欲しいと思う。  
ところで今日は土屋委員（国土交通省高山国道工事事務所職員）や安田委員（高山警察署職員）がいらっしやっているので聴きたいのだが、この冬は1月になって突然大雪が降り、いろいろな道路事情や交通事情があったけれど、そのあたりはヒッツFMとの連携は上手く取れたのか？ 事故も結構発生したみたいだがどうなのか？

安田委員： 12月と1月を比較すると、スリップ事故は倍発生しており、また雪かき中の事故（転落事故など）も1月15日以降に9件発生し、うち1人が亡くなっている。除雪の状況については、国道はすぐに除雪が行われたが、一般の道路の除雪は進んでいなかった。しかし、市民の協力で道路の除雪をしてもらい助かった。感謝したい。  
また、今週末も天気予報では雪が降る予報なので「大雪になりそうなので警戒して下さい」とヒッツFMでも呼びかけがあると思うが、その際「スリップ事故や接触事故にご注意ください」など付け加えて呼びかけてもらおうとありがたい。

土屋委員： 今、話があったとおり、市民の協力で道路や歩道の除雪をしてもらい大変助かった。感謝したい。

大萱委員長： まだまだ予断を許さない天候状況なので、雪に関する情報は的確に伝えて欲しい。未だに私の町内と原委員の町内の除雪が遅く、酷い路面状況になっていて、我々も一生懸命除雪しているけれど、なかなか追いつかない。市民の方々はそれぞれ雪掻きをしていて大変だと思うので、ヒッツFMの放送で「みんなで頑張って雪かきをしましょう」というような励ましの声掛けをして欲しいと思う。  
話は変わるが、冒頭の「両市長の対談」の中に出た話題で、高山祭・古川祭 起し太鼓の屋台行事を含む全国33の「山・鉦・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されたが、これをいくつか結んでヒッツFMが乗っかるというような…、例えば、この選ばれた33の行事を行っている地域の中にコミュニティFM局が絶対、どこかにあると思うので、行政とも協力して行事を盛り上げていけるような企画ができると良いのではないかと思う。コミュニティFMを通じて、第一にそのような動きをすれば、いろいろなメディアに取り上げてもらえると思う。聴覚のみに訴えかけるラジオはどうしても地味で、視覚にも訴えかけるテレビのほうが目立ってしまうが、ラジオがテレビのようなメディアにも出てくるというのは大事だと思う。ぜひ、高山市役所の方と相談しながら、そのような流れを作ってもらえれば面白いのかなと思う。

あと、春の高山祭や高山祭屋台の総曳き揃えなどあるが、サテライト放送をする予定なのか？

会社側： 春の高山祭は予定通りサテライトスタジオを設置して放送する予定だが、4月29日、30日の高山祭屋台総曳き揃えについては、場所が確保できればサテライト放送できないかと考えている。なお、5月の水無神社の大祭に関しては、担当者と話はしたが未定だ。

大萱委員長： 大祭は国道41号を行列が渡り歩く為、通行止めにしなくてはならないから大変だと思うが…。

安田委員： 付近の交通量のこともあるので、主催者側と十分打ち合わせをして理解を得られるようにできたらと思う。また、このような大きな行事がある際には、ヒッツFMでも交通規制の情報を事前に放送してもらいたいと思うし、当日の道路の混雑情報なども放送して欲しいと思う。

大萱委員長： 交通情報をはじめスケジュールについては、主催者や警察の方に話を聞いてヒッツFMでもお知らせすることになると思うし、担当者に出演をしてもらって話を伺うのも良いと思う。また、観光客に向けても事前に情報を発信して欲しいと思う。

大萱委員長： 他に意見が無ければ、これで閉会する。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

---

## ■審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

2月7日 番組審議委員会の席上で説明

---

## ■その他の参考事項

---

次回開催日 平成29年4月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）